

## 第Ⅲ部 調査結果の詳細

### 【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がない場合がある。
- (注7) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。



# 第1章 暮らし全般について【問1～問5】

## 1 生活総合満足度【問1】

### 【全体の状況】

現在の生活全般についてどの程度満足しているか尋ねたところ、「たいへん満足している」(6.0%)と「どちらかといえば満足している」(47.5%)を合わせた《満足している》は53.6%であった。

一方、「たいへん不満である」(3.7%)と「どちらかといえば不満である」(14.9%)を合わせた《不満である》は18.7%で、《満足している》が《不満である》を34.9ポイント上回った。

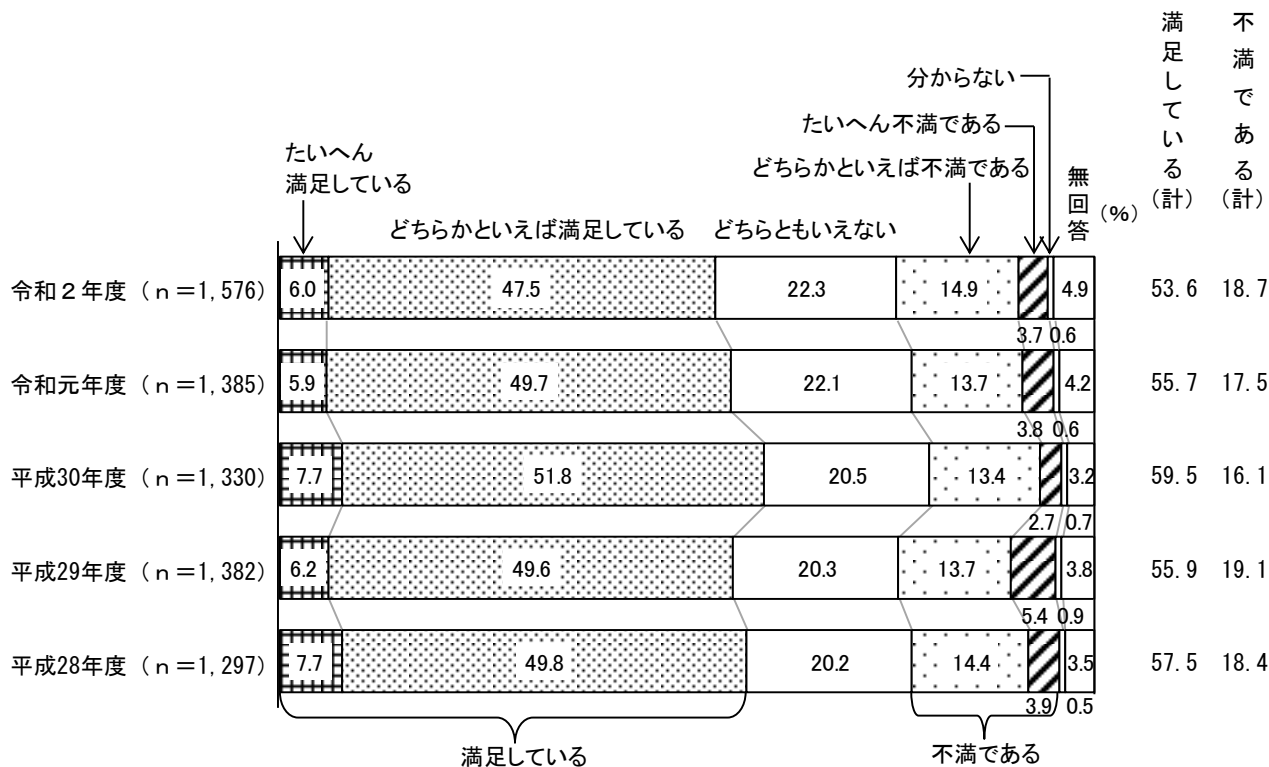
また、「どちらともいえない」は、22.3%であった。(図表1-1-1)

### 【過去との比較】

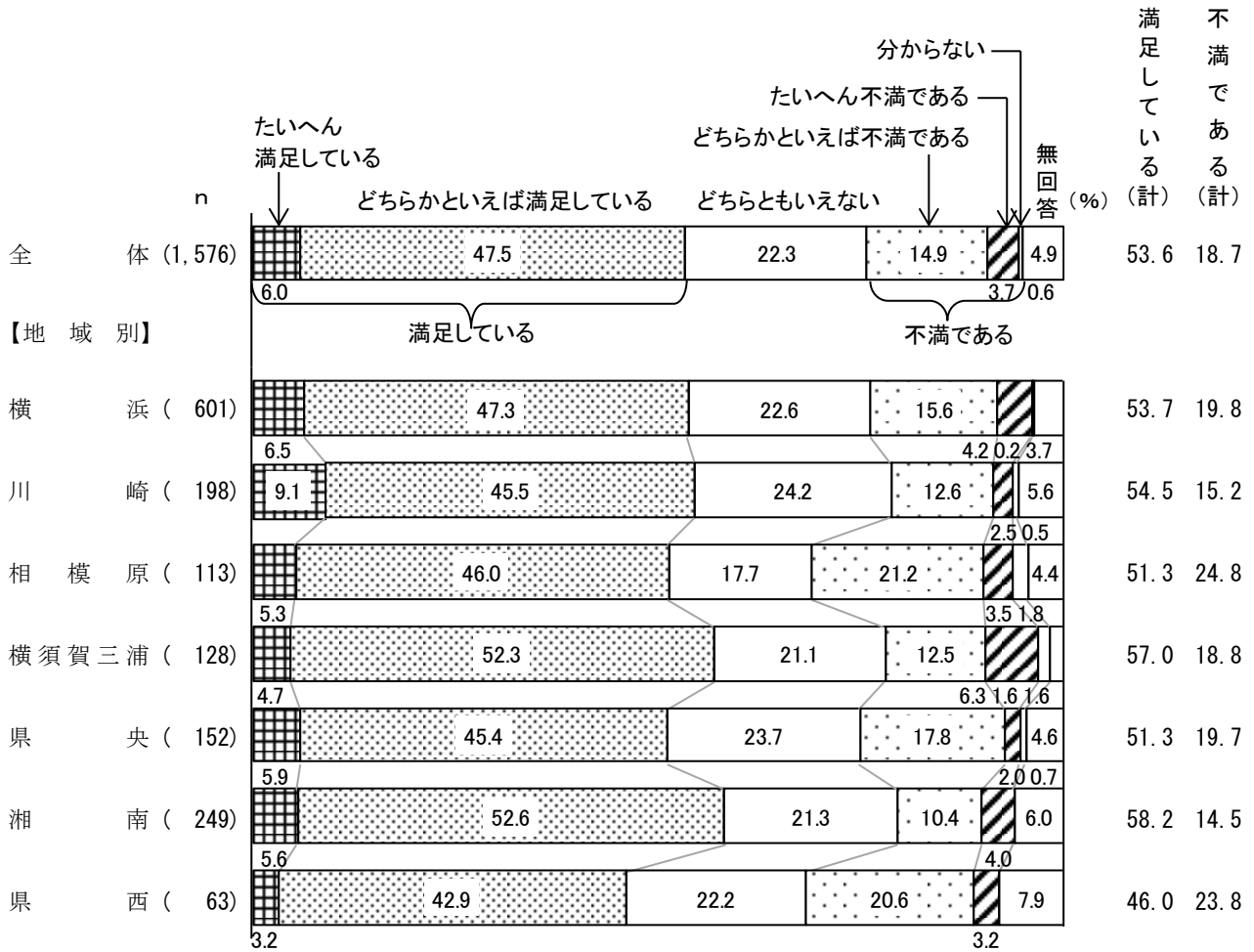
過去の調査と比較すると、《満足している》では、令和元年度は平成30年度と比べて3.8ポイント減(59.5%→55.7%)で、令和2年度は令和元年度と比べて2.1ポイント減(55.7%→53.6%)となった。

一方、《不満である》では、令和元年度は平成30年度と比べて1.4ポイント増(16.1%→17.5%)で、令和2年度は令和元年度と比べて1.2ポイント増(17.5%→18.7%)となった。(図表1-1-1)

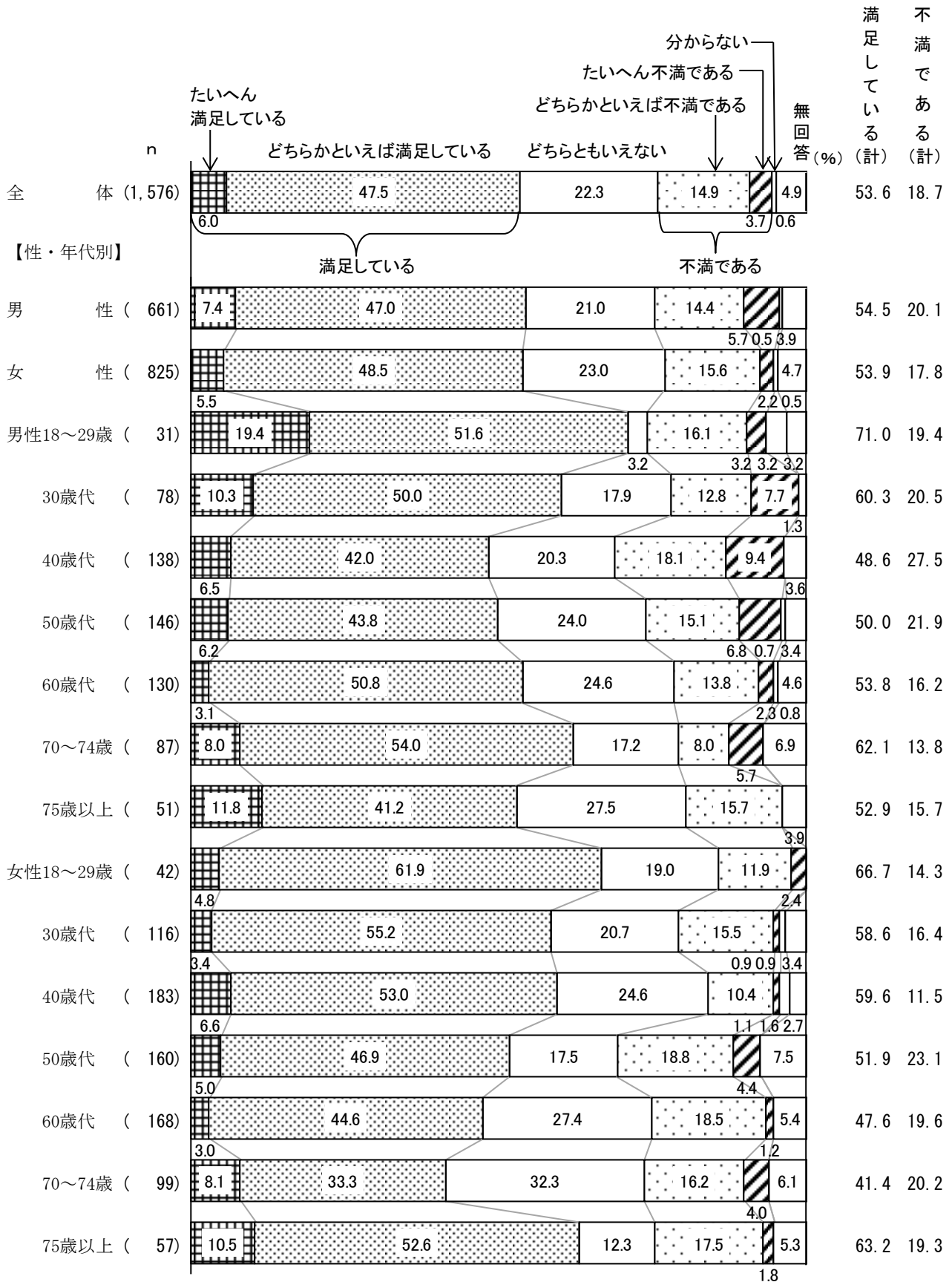
図表1-1-1 生活総合満足度—過去との比較



図表1-1-2 生活総合満足度—地域別



図表1-1-3 生活総合満足度－性・年代別



## 2 暮らし向きの変化【問2～問2-1】

### 【全体の状況】

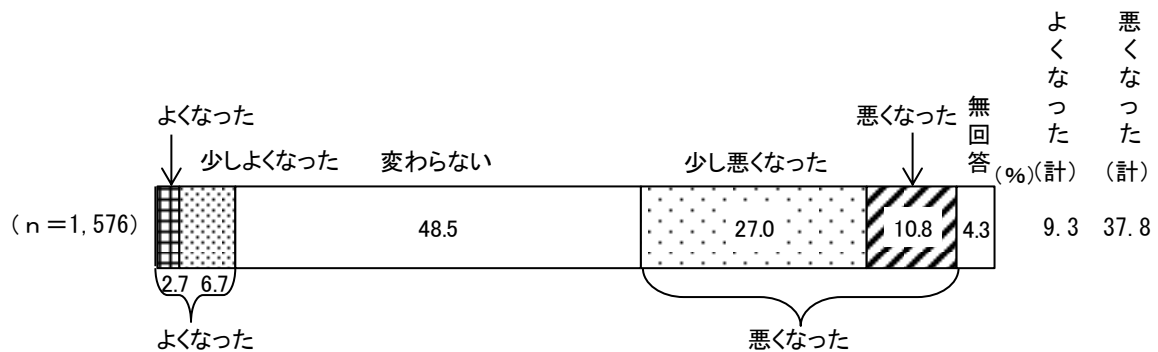
昨年と比較した現在の暮らし向きの変化について尋ねたところ、「よくなった」(2.7%)と「少しよくなった」(6.7%)を合わせた《よくなった》は9.3%であった。

一方、「悪くなった」(10.8%)と「少し悪くなった」(27.0%)を合わせた《悪くなった》は37.8%で、《悪くなった》が《よくなった》を28.5ポイント上回った。

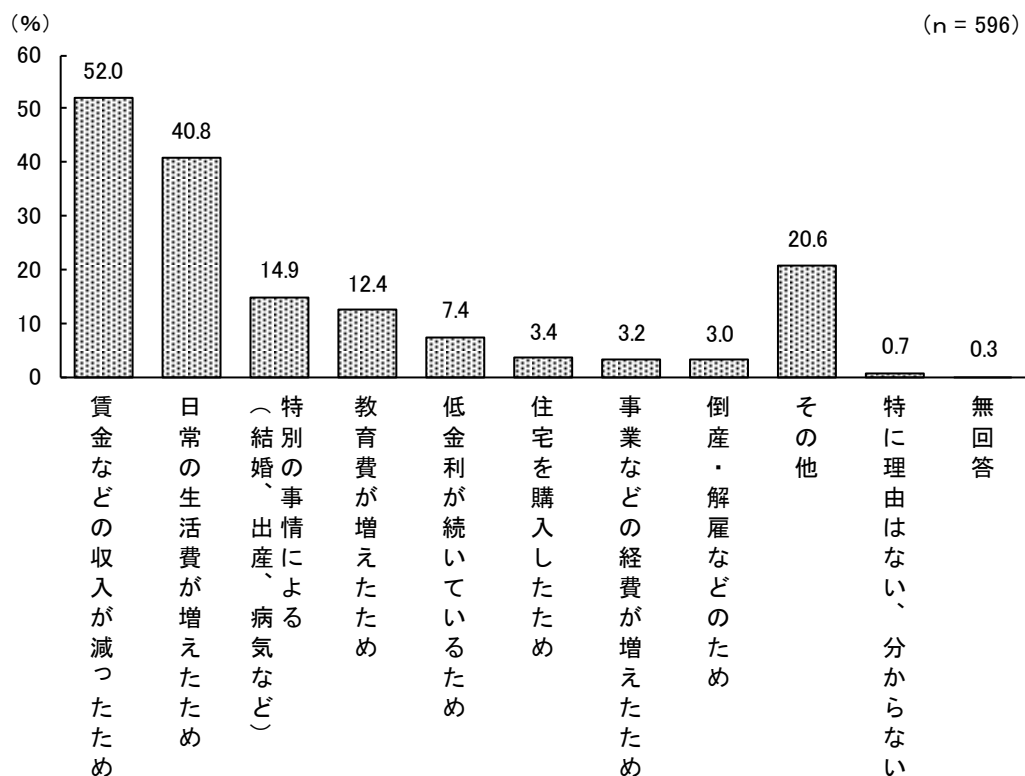
また、「変わらない」は、48.5%であった。(図表1-2-1)

暮らし向きが《悪くなった》と回答した596人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「賃金などの収入が減ったため」が52.0%で最も多く、次いで「日常の生活費が増えたため」が40.8%であった。(図表1-2-2)

図表1-2-1 暮らし向きの変化



図表1-2-2 暮らし向きが悪くなった理由(複数回答)

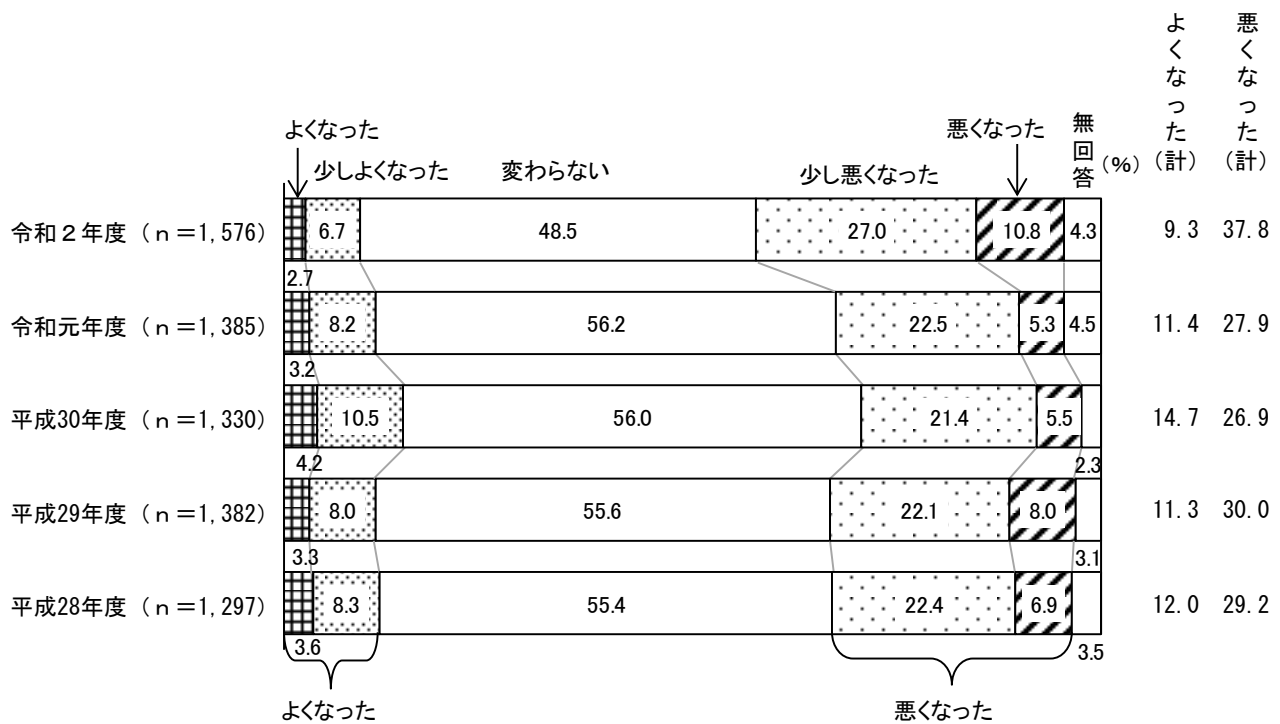


【過去との比較】

くらし向きの変化を過去の調査と比較すると、《よくなった》は、令和元年度は平成30年度と比べて3.3ポイント減（14.7%→11.4%）で、令和2年度は令和元年度と比べて2.1ポイント減（11.4%→9.3%）となった。

一方、《悪くなった》は、令和元年度は平成30年度と比べて1.0ポイント増（26.9%→27.9%）で、令和2年度は令和元年度と比べて9.9ポイント増（27.9%→37.8%）となった。（図表1-2-3）

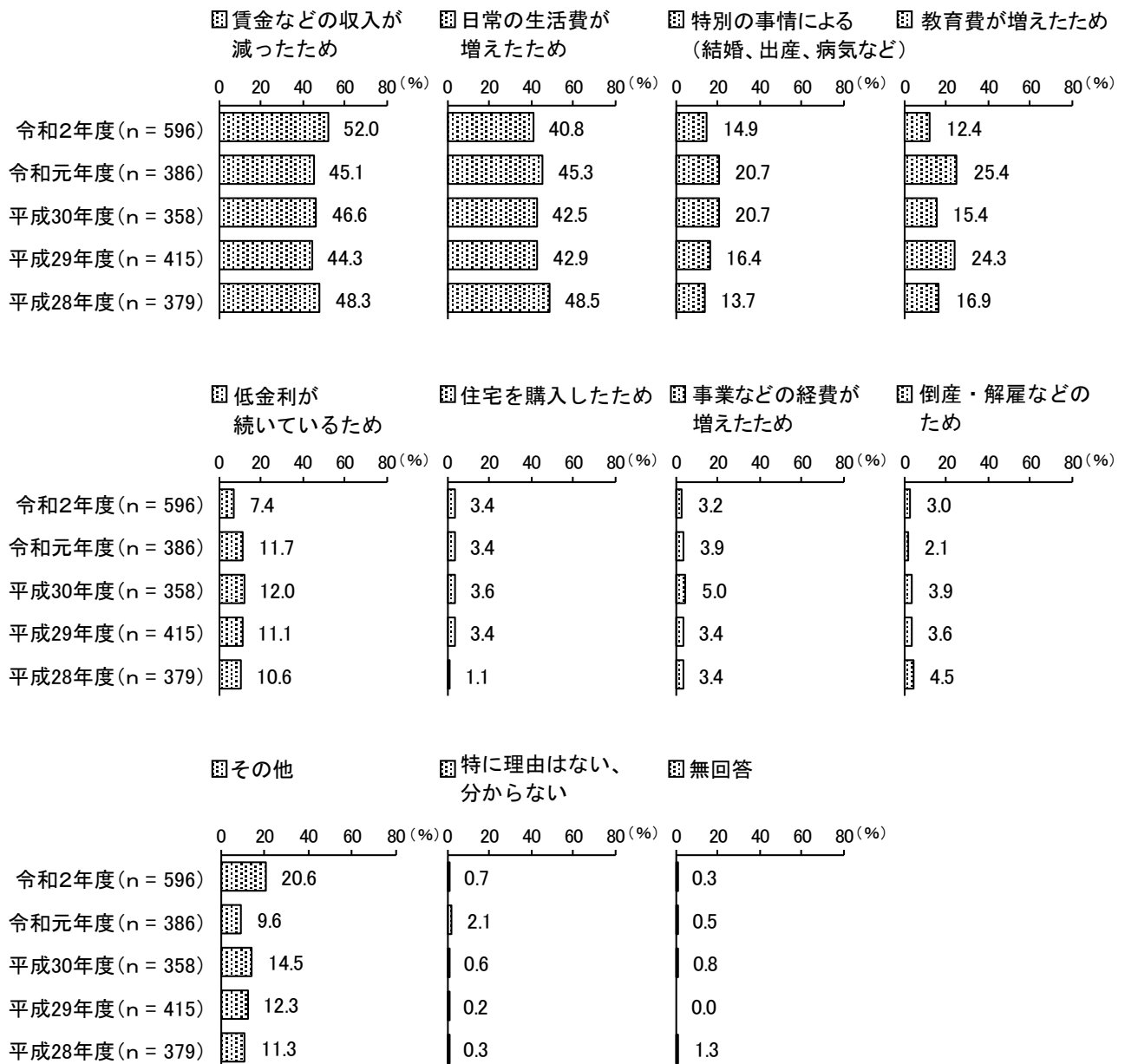
図表1-2-3 くらし向きの変化－過去との比較



暮らし向きが《悪くなった》理由を過去の調査と比較すると、「教育費が増えたため」は、令和元年度と比べて13.0ポイント減(25.4%→12.4%)となり、最も減少した項目であった。

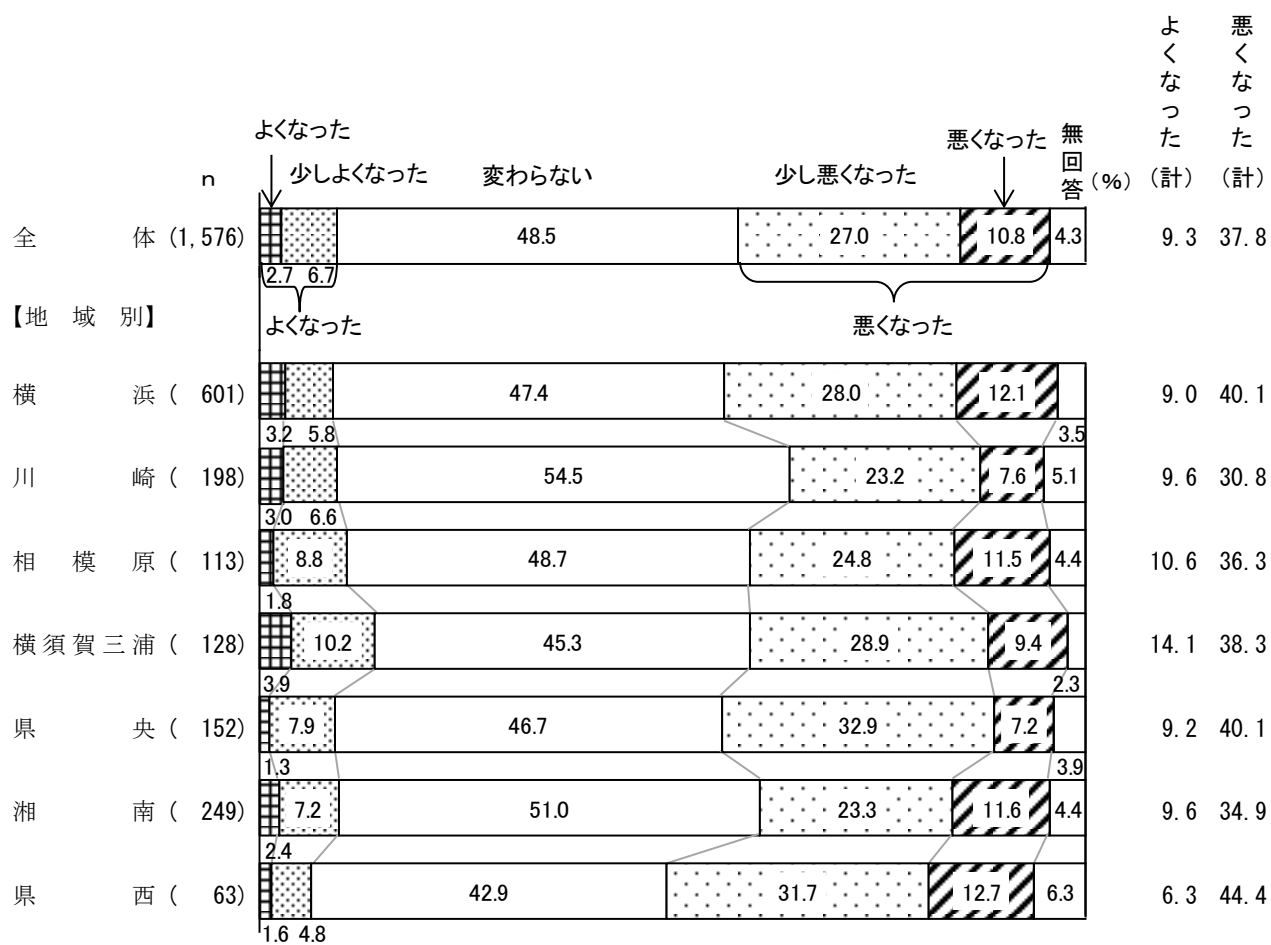
一方、「賃金などの収入が減ったため」は、令和元年度と比べて6.9ポイント増(45.1%→52.0%)となり、最も増加した項目であった。(図表1-2-4)

図表1-2-4 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－過去との比較





図表1-2-5 くらし向きの変化—地域別

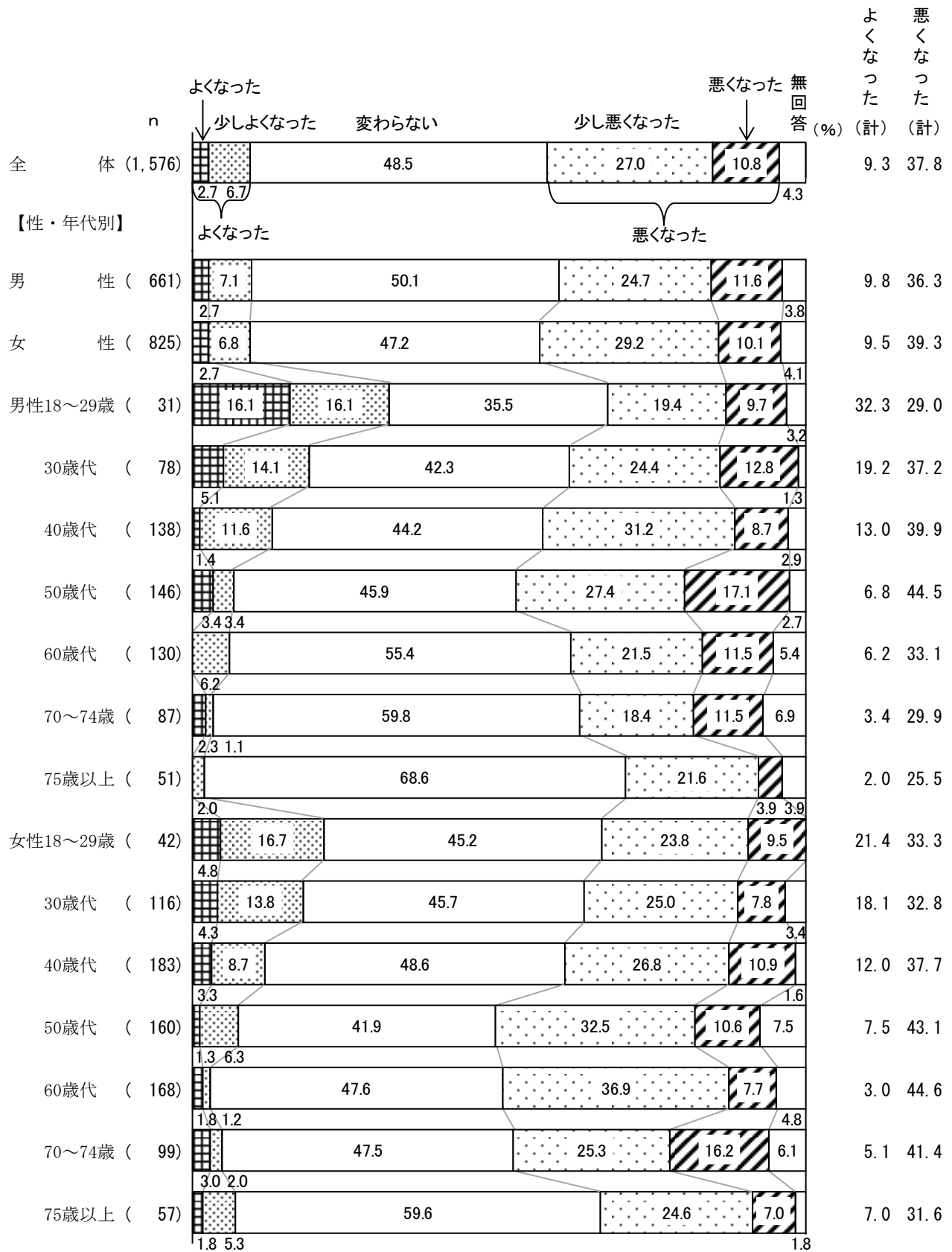


図表1-2-6 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－地域別

(%)

	n	賃金などの収入が減ったため	日常生活費が増えたため	産、特別の事情による（結婚、出産、病気など）	教育費が増えたため	低金利が続いているため	住宅を購入したため	事業などの経費が増えたため	倒産・解雇などのため	その他	特に理由はない、分からない	無回答
全 体	596	52.0	40.8	14.9	12.4	7.4	3.4	3.2	3.0	20.6	0.7	0.3
【地 域 別】												
横 浜	241	46.5	43.2	15.8	14.9	6.6	3.7	2.1	2.1	22.4	0.4	0.4
川 崎	61	54.1	37.7	14.8	11.5	9.8	4.9	3.3	8.2	23.0	-	-
相 模 原	41	65.9	39.0	17.1	7.3	4.9	-	-	-	7.3	4.9	-
横須賀三浦	49	51.0	36.7	16.3	16.3	6.1	8.2	4.1	8.2	24.5	2.0	-
県 央	61	59.0	32.8	14.8	9.8	1.6	3.3	8.2	1.6	13.1	-	-
湘 南	87	51.7	44.8	12.6	12.6	12.6	2.3	1.1	2.3	27.6	-	-
県 西	28	60.7	39.3	7.1	10.7	10.7	-	3.6	-	17.9	-	-

図表1-2-7 暮らし向きの変化—性・年代別



図表1-2-8 暮らし向きが悪くなった理由（複数回答）－性・年代別

(%)

	n	賃金などの収入が減ったため	日常生活費が増えたため	特別の事情による（結婚、出産、病気など）	教育費が増えたため	低金利が続いているため	住宅を購入したため	事業などの経費が増えたため	倒産・解雇などのため	その他	特に理由はない、分からない	無回答
全体	596	52.0	40.8	14.9	12.4	7.4	3.4	3.2	3.0	20.6	0.7	0.3
【性・年代別】												
男性	240	55.8	37.9	11.3	12.1	7.5	4.2	4.2	3.3	20.8	0.8	-
女性	324	49.7	42.9	17.0	13.6	7.4	3.1	1.5	2.8	21.9	0.6	-
男性 18～29歳	9	22.2	66.7	11.1	11.1	-	11.1	-	-	33.3	-	-
30歳代	29	44.8	34.5	13.8	17.2	6.9	13.8	3.4	6.9	34.5	-	-
40歳代	55	58.2	54.5	10.9	29.1	5.5	7.3	5.5	3.6	10.9	1.8	-
50歳代	65	63.1	33.8	13.8	7.7	6.2	-	3.1	6.2	20.0	-	-
60歳代	43	69.8	14.0	11.6	2.3	2.3	2.3	7.0	-	25.6	-	-
70～74歳	26	26.9	50.0	7.7	-	30.8	-	-	-	26.9	3.8	-
75歳以上	13	69.2	30.8	-	7.7	-	-	7.7	-	-	-	-
女性 18～29歳	14	35.7	14.3	7.1	7.1	7.1	-	-	7.1	50.0	-	-
30歳代	38	55.3	52.6	21.1	18.4	2.6	7.9	-	2.6	18.4	-	-
40歳代	69	52.2	37.7	14.5	33.3	2.9	5.8	1.4	2.9	27.5	-	-
50歳代	69	63.8	44.9	17.4	15.9	4.3	2.9	1.4	4.3	10.1	-	-
60歳代	75	50.7	49.3	14.7	2.7	10.7	1.3	2.7	1.3	24.0	1.3	-
70～74歳	41	29.3	39.0	17.1	-	19.5	-	2.4	2.4	24.4	-	-
75歳以上	18	27.8	38.9	33.3	-	5.6	-	-	-	16.7	5.6	-

### 3 今後の暮らし向きの見通し【問3】

#### 【全体の状況】

今後の暮らし向きの見通しを尋ねたところ、「明るい」(3.3%)と「やや明るい」(8.3%)を合わせた《明るい》は11.6%であった。

一方、「暗い」(10.0%)と「やや暗い」(28.8%)を合わせた《暗い》は38.8%となり、《暗い》が《明るい》を27.2ポイント上回った。

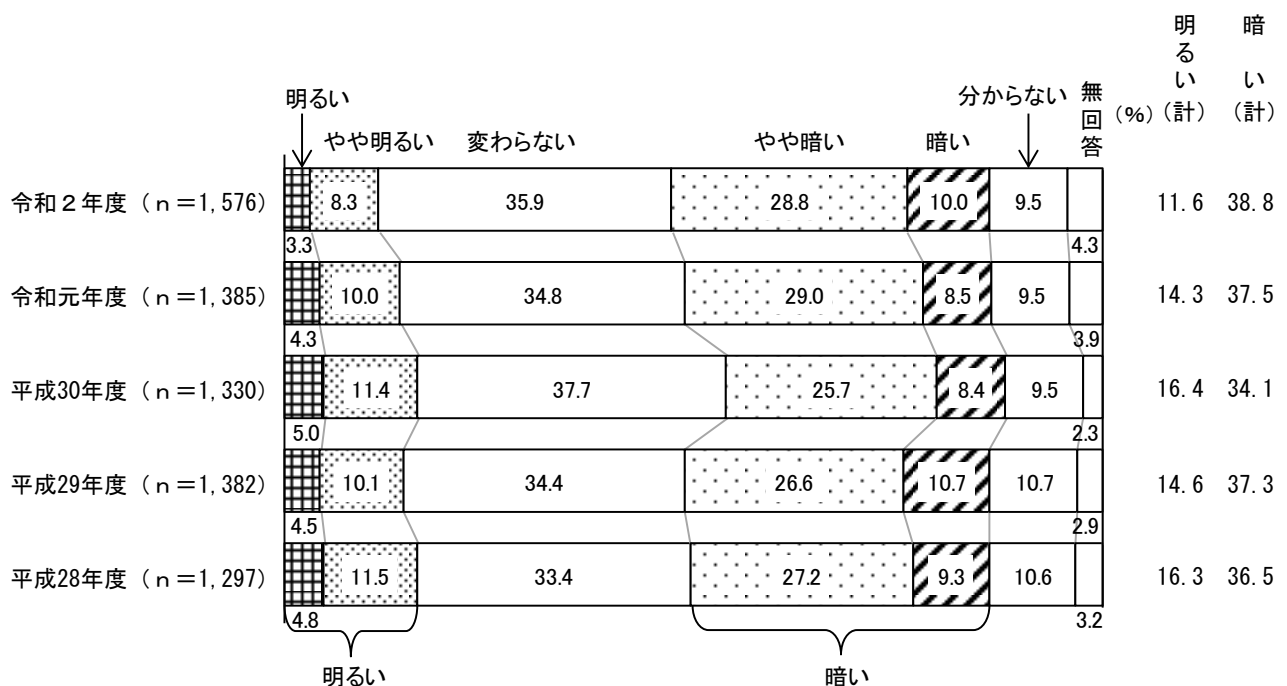
また、「変わらない」は、35.9%であった。(図表1-3-1)

#### 【過去との比較】

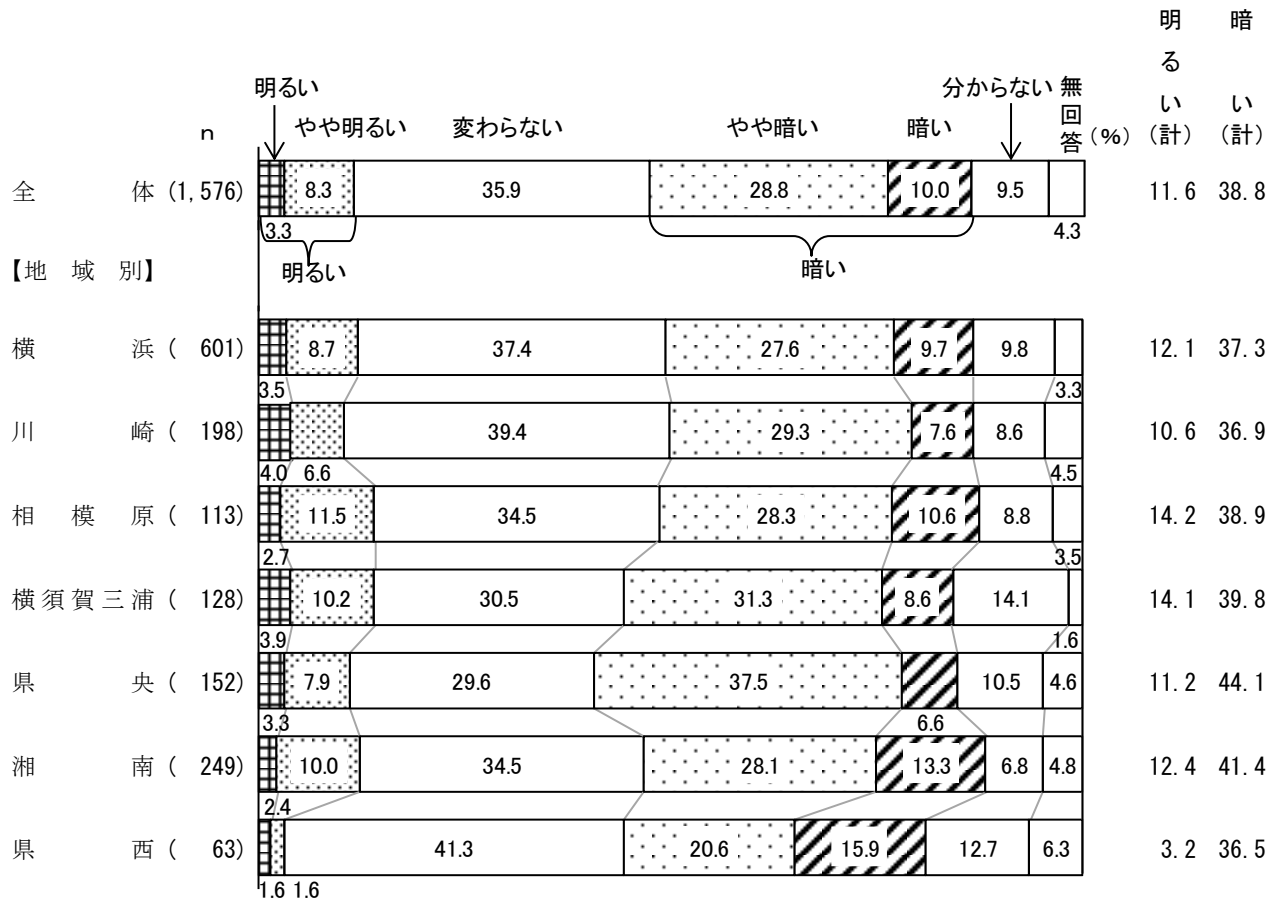
過去の調査と比較すると、《明るい》は、令和元年度は平成30年度と比べて2.1ポイント減(16.4%→14.3%)で、令和2年度は令和元年度と比べて2.7ポイント減(14.3%→11.6%)となった。

一方、《暗い》は、令和元年度は平成30年度と比べて3.4ポイント増(34.1%→37.5%)で、令和2年度は令和元年度と比べて1.3ポイント増(37.5%→38.8%)となった。(図表1-3-1)

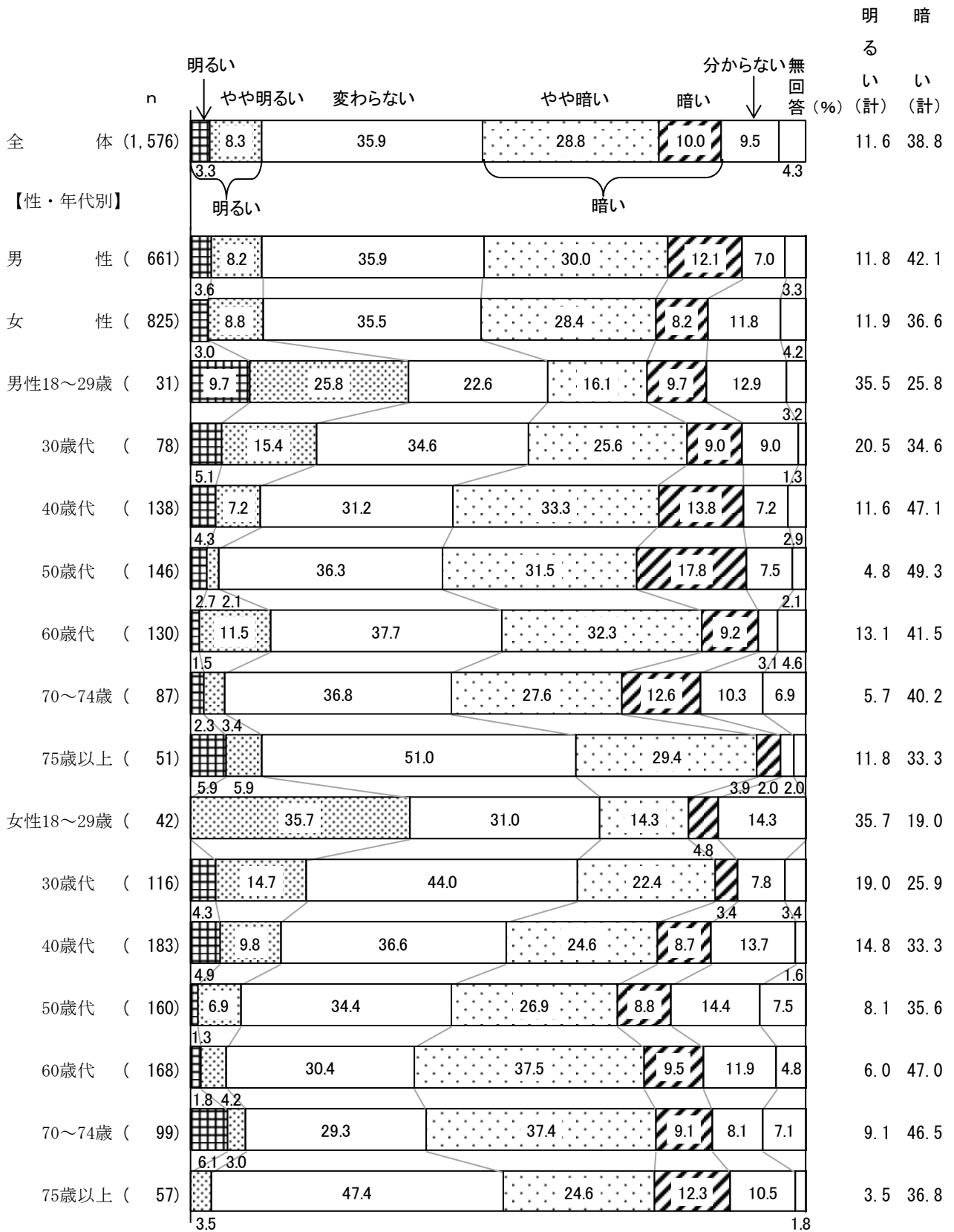
図表1-3-1 今後の暮らし向きの見通し—過去との比較



図表1-3-2 今後の暮らし向きの見通し—地域別



図表1-3-3 今後の暮らし向きの見通し－性・年代別



#### 4 地域の住みよさ【問4】

##### 【全体の状況】

現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねたところ、「たいへん住みよい」(16.4%)と「どちらかといえば住みよい」(52.5%)を合わせた《住みよい》は69.0%であった。

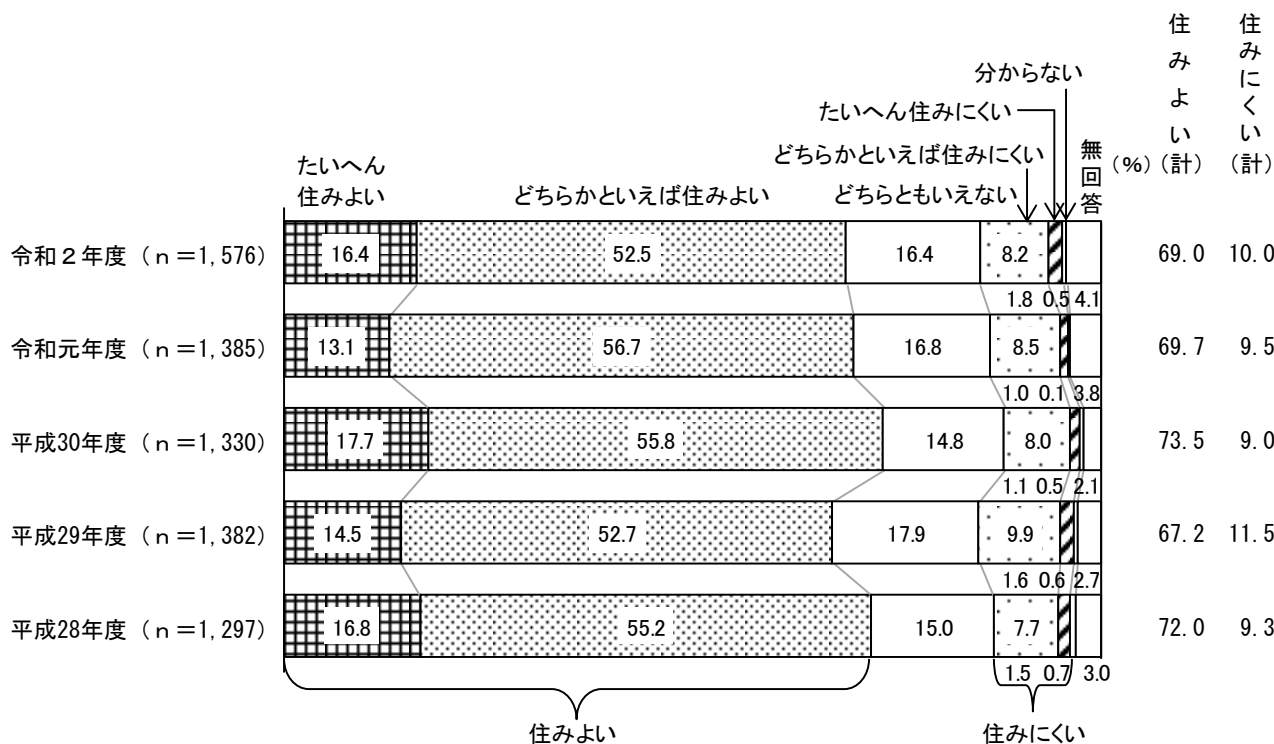
一方、「たいへん住みにくい」(1.8%)と「どちらかといえば住みにくい」(8.2%)を合わせた《住みにくい》は10.0%で、《住みよい》が《住みにくい》を59.0ポイント上回った。(図表1-4-1)

##### 【過去との比較】

過去の調査と比較すると、《住みよい》は、令和元年度は平成30年度と比べて3.8ポイント減(73.5%→69.7%)で、令和2年度は令和元年度と比べて0.7ポイント減(69.7%→69.0%)となった。

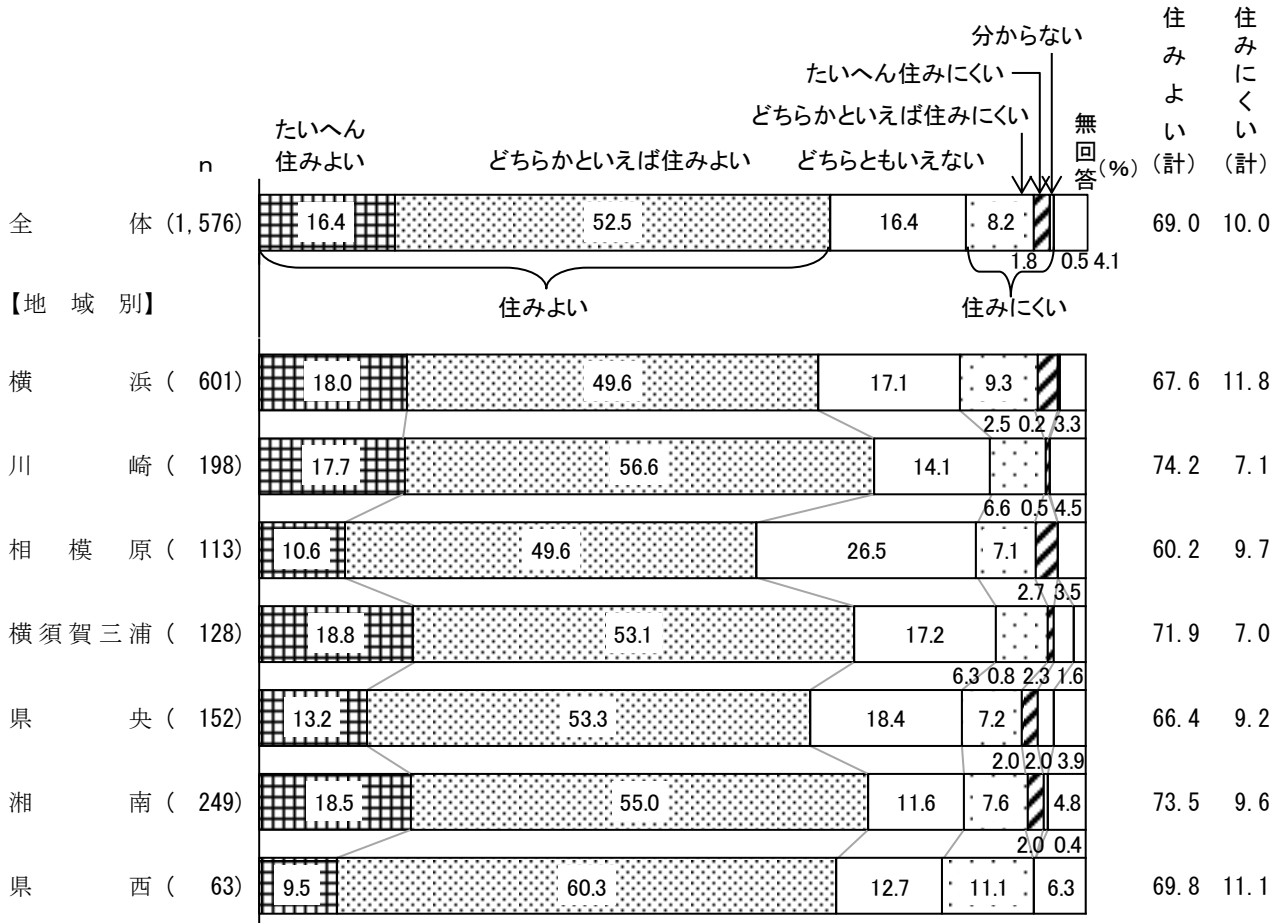
一方、《住みにくい》は、令和元年度は平成30年度と比べて0.5ポイント増(9.0%→9.5%)で、令和2年度は令和元年度と比べて0.5ポイント増(9.5%→10.0%)となった。(図表1-4-1)

図表1-4-1 地域の住みよさー過去との比較

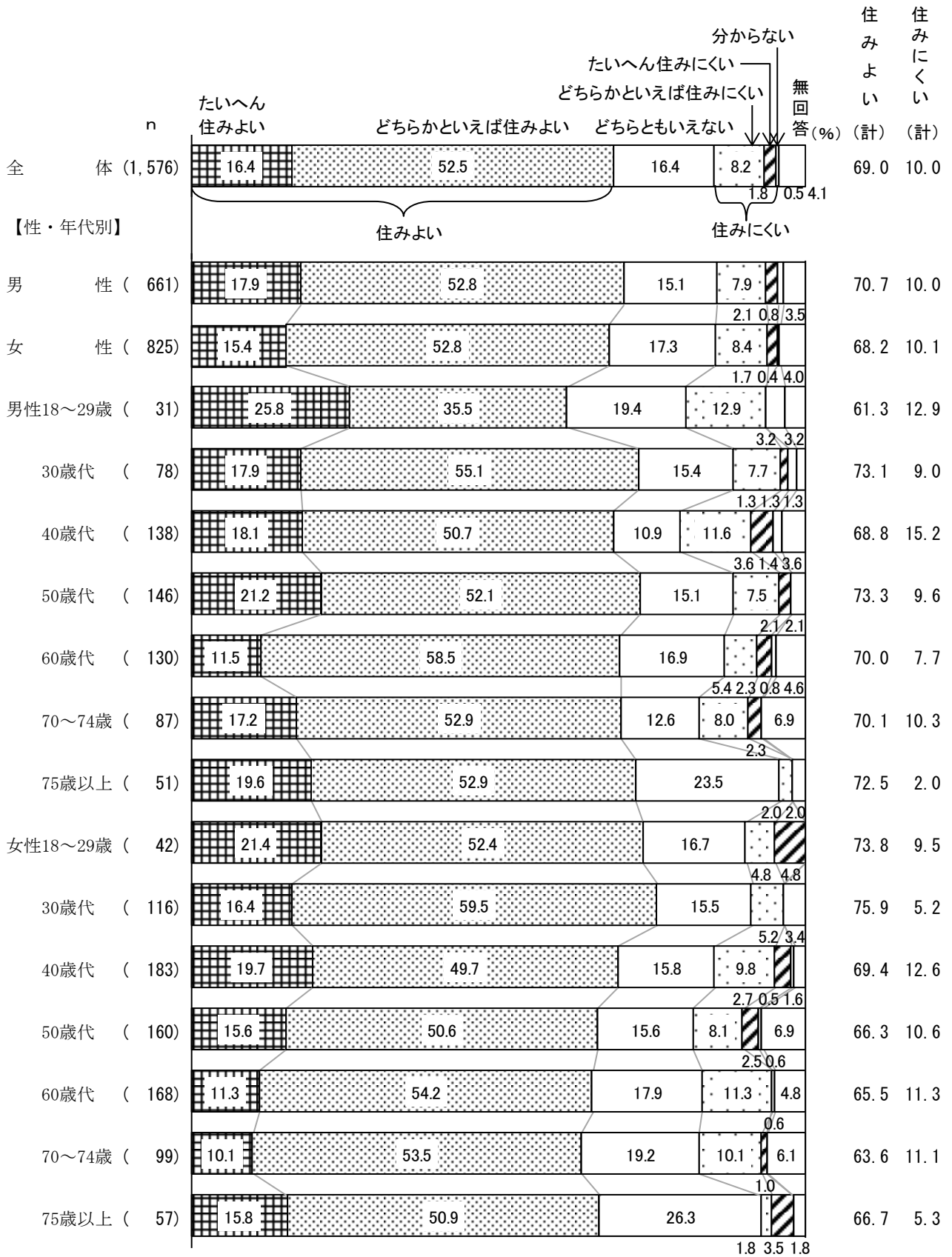




図表1-4-2 地域の住みよさ—地域別



図表1-4-3 地域の住みよさ—性・年代別



## 5 定住意向【問5】

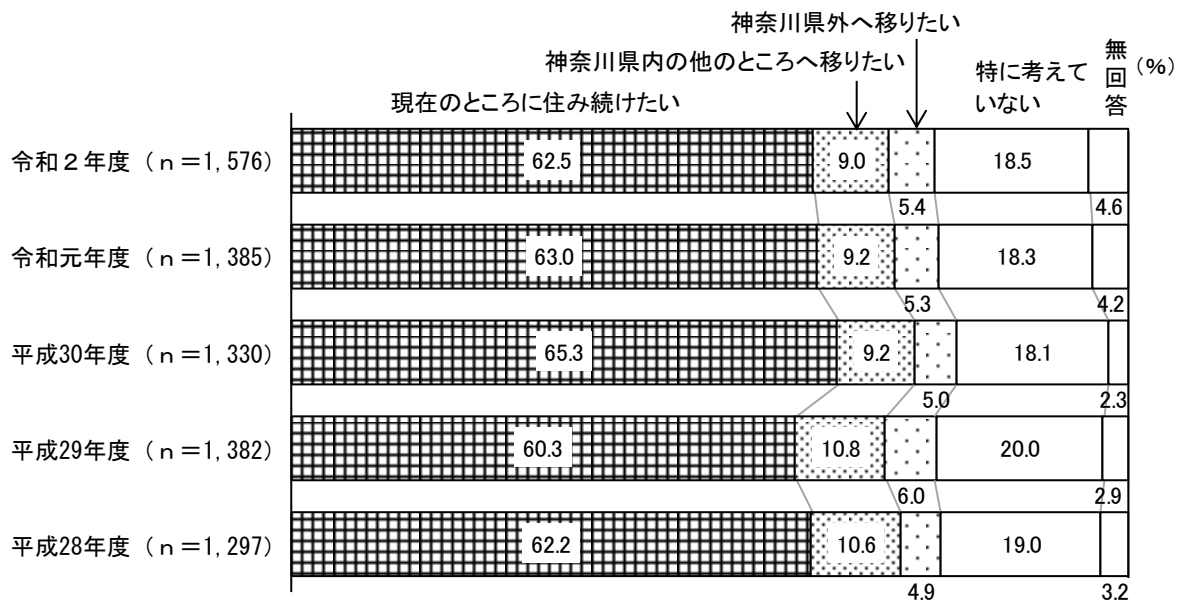
### 【全体の状況】

今後も現在のところに住みたいか尋ねたところ、「現在のところに住みたい」が62.5%で最も多かった。また、「神奈川県外へ移りたい」は、5.4%であった。(図表1-5-1)

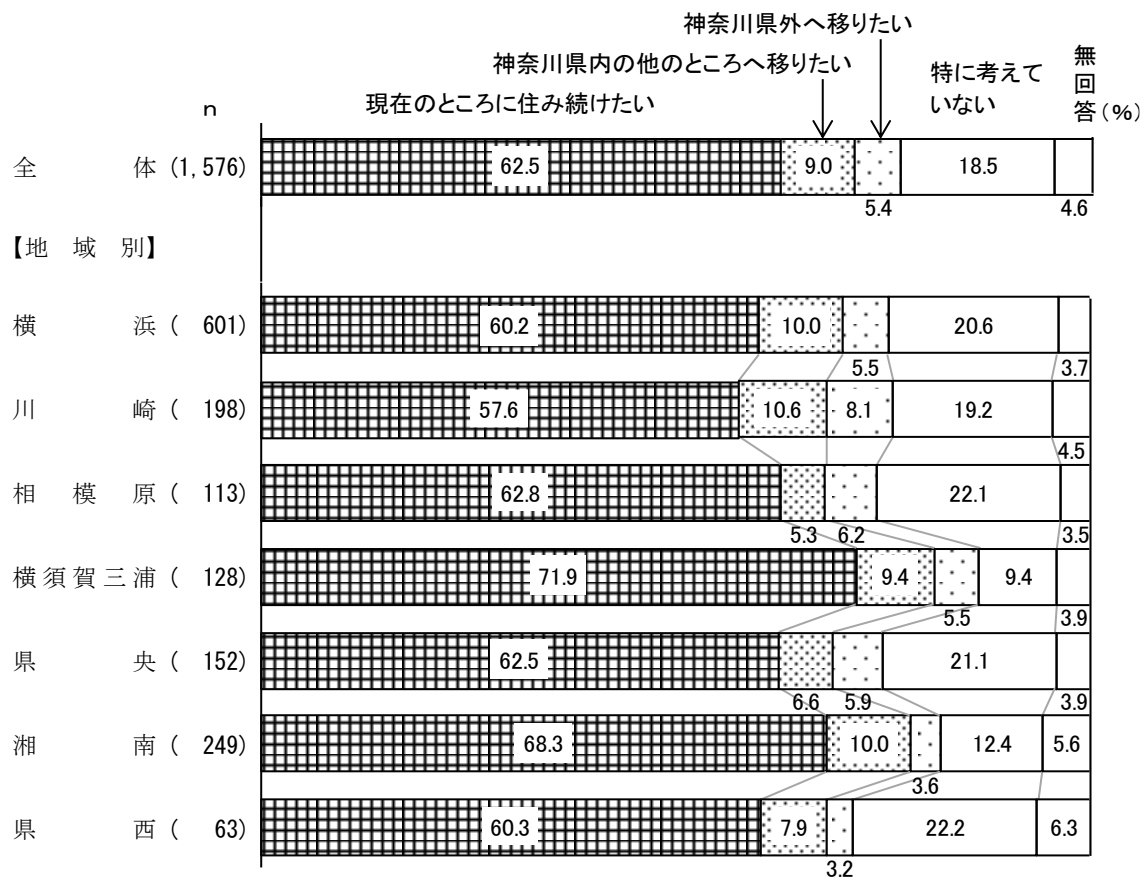
### 【過去との比較】

過去の調査と比較すると、「現在のところに住みたい」は、令和元年度は平成30年度と比べて2.3ポイント減(65.3%→63.0%)で、令和2年度は令和元年度と比べて0.5ポイント減(63.0%→62.5%)となった。(図表1-5-1)

図表1-5-1 定住意向－過去との比較



図表1-5-2 定住意向—地域別



図表1-5-3 定住意向—性・年代別

